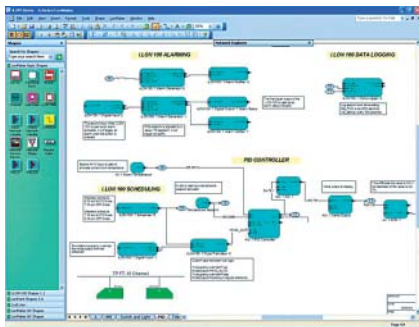


## LonMakerインテグレーションツール/ターボエディション リリース3.2 モデル37000-32/37020-32



### 説明

LonMakerインテグレーションツール ターボエディション リリース3.2は、相互運用性を備えた、オープンでそしてマルチベンダ対応のLONWORKSネットワークの設計や導入、操作、保守に使用するソフトウェアパッケージです。エシロン社のLNSネットワークオペレーティングシステムをベースにしたLonMakerツールは、クライアント/サーバー型の優れたアーキテクチャを持ち、ユーザインタフェースには使いやすいVisioを採用しています。つまり、制御ネットワークの設計やコミッション作業を行うのに十分な機能がありながら、導入後も運用や保守に使えるツールとして現場に備えておける経済性も持ち合わせています。

LonMakerツールはLONMARKデバイスも、i.LONインターネットサーバーも、またその他のLONWORKSデバイスも総合的にサポートします。本ツールはLONMARKの特徴、つまり標準機能プロファイル、構成プロパティ、リソースファイル、ネットワーク変数のエイリアス、動的なネットワーク変数、動的な機能ブロック、柔軟に変更可能なタイプなどを最大限に活用します。たとえば、LONMARKの機能プロファイルはLonMaker図面内ではグラフィカルな機能ブロックとして表現され、制御システムのロジックの視覚化と文書化を容易にします。また、導入作業を容易にするためにLNSプラグインがサポートされています。

ユーザは使いやすい、CADソフトのような感覚で制御システムを設計できます。Visioの優れたシェイプ作図機能を利用することにより、直感的でシンプルな方法でデバイスを作成できます。LonMakerツールにはLONWORKSネットワークに使用できる有用なシェイプが数多く用意されていますが、ユーザはカスタムシェイプを新規に作成することもできます。カスタムシェイプは単一のデバイスや機能ブロック、接続などのようにシンプルなものから、サブシステムをネストさせてそれらの間のデバイスや機能ブロック、接続などをあらかじめ定義した完全なサブシステムのような複雑なものまで、さまざまに作成できます。サブシステムのカスタムシェイプをもとにしてサブシステムを新規に作成したい場合は、そのカスタムシェイプをステンシルから新しい図面ページにドラッグするだけで簡単に作成できます。この機能は複雑なシステムを設計するときにとっても便利です。

導入担当者が複数デバイスのコミッション作業を並行して行えば、ネットワークの導入に要する時間を短縮することができます。デバイスを識別する方法は、サービスピンを使用する方法、バーコードをスキャンする方法、[Wink] コマンドを実行する方法、手入力する方法、自動復旧のいずれかです。接続タイプを自動的に選択する新しい機能により、ネットワークの導入に要する時間をさらに短縮することができます。インテグレータが接続を

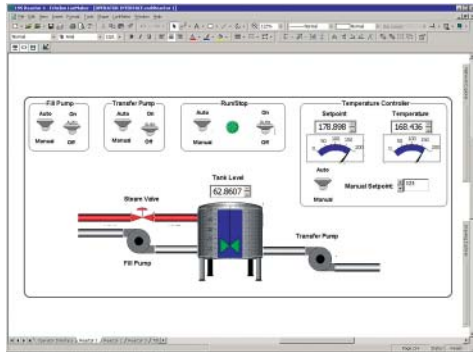
- ▼ LONWORKS®ネットワークをグラフィカルに設計、導入（コミッション）、運用、保守
- ▼ LNS®ネットワークオペレーティングシステム ターボエディション（新製品）およびマイクロソフトVisio 2003（新製品）が付属
- ▼ ネットワーク内でデバイスの変更を行う複数のユーザを同時にサポート（新機能）
- ▼ 接続を指定する際によくあるミスを減らすための接続タイプ自動選択機能（新機能）
- ▼ 最新のインターフェースにより設計時間を短縮（新機能）
- ▼ VisioのSmartShape®をまとめたオペレータインタフェースコンポーネントが付属（新機能）
- ▼ XMLによるインポート/エクスポート機能（新機能）により、他社製ツール・アプリケーションとの容易な統合を実現
- ▼ LONWORKSネットワークまたはIPネットワークを介したリモートアクセスをサポート
- ▼ i.LON®製品をサポートし、インターネットなどのIPネットワークとの容易な統合を実現
- ▼ 既存ネットワークからの設計の復元が可能
- ▼ 個々の独立したネットワークを1つのネットワークに統合
- ▼ LNSプラグインとLONMARK®デバイスをまとめてサポートし、導入を簡素化

作成または変更する際に、LonMakerツールは作成される接続の種類から判断してデフォルトの接続タイプを表示します。この新しい機能により、接続を指定する際によくあるミスが減らすことができます。また、ドラッグ&ドロップ方式のコネクタツールや、LonMaker図面で接続を表示しないようにする機能も新たに追加され、接続の作成・管理がさらにシンプルになりました。

LonMakerターボエディションには、ネットワークを短時間で設計できるようにするさまざまな新機能が盛り込まれています。多くのウィザードを簡素化し、デバイスや機能ブロックを新規に追加する際の作業ステップ数を減らしました。新規に作成した機能ブロックを近くのデバイスに、あるいは新規に作成したデバイスを近くのチャンネルに自動的に関連付けるアクセラレータを新たに追加し、デバイスや機能ブロックの新規作成に要する手順がさらに簡素化されました。動的なネットワーク変数の追加手順も簡素化され、たとえばi.LON 100インターネットサーバーなどのような動的なインタフェースを持つデバイスで使用する動的なネットワーク変数も容易に作成できるようになりました。

ネットワークリカバリー機能により、ネットワークの移行が容易になりました。他のツールを使用して導入したネットワーク、あるいはデータベースを利用できなくなったネットワークなどを簡単に移行することができます。また大規模なシステムの場合、ネットワークマージ機能を利用することにより、まず個々のシステムを個別に導入して後でひとつのシステムにマージするといったことが可能になります。

ネットワーク変数や構成プロパティをブラウズするための統合アプリケーションにより、テストやデバイスの設定作業も容易になりました。デバイスの個々の機能ブロックをテストしたり、有効/無効、オーバーライドなどの操作を管理ウィンドウから行えます。また、デバイスに対して[Test]や[Wink]などのコマンドを実行したり、[Online]、[Offline]などのコマンドでデバイスの状態を操作したりできます。



統合型のLonMaker「データポイント」シェイプを使用すると、LonMakerツールでLONWORKSネットワーク用のシンプルなオペレータインタフェースを作成することができます。「データポイント」シェイプはVisioのスマートシェイプのひとつで、LonMaker図面上のどこにでも追加できます。LonMakerの「データポイント」シェイプはネットワーク内のあらゆるネットワーク変数、構成プロパティ、または機能ブロックのオーバーライドと関連付けることができ、選択ポイントの監視や書き込みが可能です。他のVisioシェイプにもリンクさせることができるため、LonMaker図面内にグラフィカルなオペレータインタフェースを作成することも可能です。このLonMaker「データポイント」を使用することにより、LonMakerツールさえあればあらゆるネットワークに対応できるようになります。

より複雑な監視・制御アプリケーションが必要な場合は、LNSネットワークオペレーティングシステムをベースにしたヒューマンマシンインタフェースツールとLonMakerツールを併用します。エシロン社のLNS DDEサーバーは、たとえばワンダーウェア社のInTouch®、インテリジョン社のFIX®、USDATA社のFactoryLink®、ナショナルインストルメント社のLabView®やBridgeView®など、さまざまな他社製オペレータインタフェースパッケージのI/Oドライバとして使用することができます。LonMakerツールを使用して、LonMakerをインストールしたコンピュータでネットワーク変数を作成できます。作成したネットワーク変数はLonMakerツールを使用してネットワーク内のネットワーク変数にバインドできます（バインドするネットワーク変数の数には事実上制限はありません）。

LonMakerインテグレーションツールには、プロフェッショナルエディションとスタンダードエディションの2種類あります。プロフェッショナルエディションはネットワークインテグレート向けの本格的な製品です。一方、スタンダードエディションは導入後の保守のために現場に備えておける経済性を持ち合わせた製品です。両エディションの違いに関する詳細は、Webサイト ([www.echelon.com/lonmaker](http://www.echelon.com/lonmaker)) の「LonMaker Version Comparison」リンクからご確認ください。

## ツール統合化機能

従来のAutoCAD®ファイルインポート/エクスポート機能に加えて新たにXMLファイルインポート/エクスポート機能が追加され、LonMakerツールを他社製アプリケーションと簡単に統合できるようになりました。LonMakerツールでエクスポートするXMLファイルにはLonMakerネットワークの任意の一部、あるいはネットワーク全体に関する内容が記述されています。このXMLファイルを他のツール（アプリケーション）を使用して修正するかあるいはXMLファイルを新規に作成して、LonMakerネットワークの修正や新規作成をLonMakerツールに指示します。XMLという標準仕様によりLonMakerツールは他社製ツールとの統合が可能な拡張性に富んだプラットフォームとなりました。たとえばOEMメーカーが、対象業務特有の入力をネットワークインテグレートから収集するようなその業務専用のフロントエンドアプリケーションを開発す

る場合、これらの入力をXMLファイルに一連の仕様として記述し、このXMLファイルをLonMakerツールで自動的にインポートして処理させることができます。またエクスポート機能を利用してLonMakerネットワーク内のデバイスや機能ブロック、ネットワーク変数、構成プロパティ、そして接続などの一覧を含む現況図面のレポートを作成することも可能です。

## LNSネットワークオペレーティングシステム

LonMakerツールにはLNSターボエディションのランタイムとLNSターボエディションサーバーが同梱されています。LNSはLONWORKSネットワーク上で相互運用性を備えたアプリケーションをサポートするための標準のプラットフォームです。LNSは複数のアプリケーションや複数のユーザが同時にネットワークを管理し、ネットワークとやり取りすることを可能にします。複数のLonMakerユーザがLNSサーバーを共有し、LONWORKSネットワークあるいはLANやインターネットを経由してアクセスできます。LonMakerターボエディションで新たに対応したこのマルチユーザ機能により、ひとつの図面を複数のユーザが同期を取りながら同時に変更することができます。つまりそれぞれのユーザは、他のユーザが加えた変更をリアルタイムに見ながら変更作業を行うことができます。すべてのユーザが行ったすべての変更内容がLNSデータベースに保存されますので、他のユーザが変更作業を行っているときに一部のユーザがオフラインで作業していたとしても同期を取ることができます。このデータベース同期機能はまた、コンピュータに障害が発生したときの復旧作業にも有効です。図面に加えた変更内容が障害により失われてしまっても、LonMakerツールを再起動すれば復旧されます。

LonMakerツールはLNSのプラグイン標準に準拠しています。LONWORKSデバイス製造メーカーは、このプラグイン標準を利用して自社製品用の独自のアプリケーションを提供することができます。こういったアプリケーションを利用することにより、システムエンジニアをはじめとする技術者はデバイスの定義、コミッション作業、保守、テストなどを容易に実施できます。LNSプラグインの一覧につきましては、Webサイト ([www.echelon.com/plugins](http://www.echelon.com/plugins)) でご確認ください。

LonMaker 3.1およびそれ以前のバージョンをお使いのお客様の場合、LNSターボエディションをお使いいただきますと、1) おおむね20%の性能向上、2) 拡張性や信頼性、使い勝手が向上、3) ホットバックアップ機能のサポート、4) スケジュールバックアップ機能のサポート、5) エンハンスされたLONMARKのサポート、などの違いがあります。またLNSターボエディションではIP-852のサポートも強化されています。IP-852チャンネル上で最大256までのデバイスをサポートし、またファイアウォールの後で複数のデバイスを利用できます。

## リリース1、2、3、3.1のアップグレード

LonMakerインテグレーションツール リリース1、2、3、3.1をお使いのお客様は、モデル37012-32や37032-32などのアップグレード製品をご購入いただくことにより、LonMakerターボエディションにアップグレードすることができます。

## LonMakerインテグレーションツール製品ラインナップ

LonMakerインテグレーションツール	マイクロソフトVisioエディション	LonMakerクレジット	モデル番号
プロフェッショナルエディション	2003プロフェッショナル（注：1参照）	64	37000-32
スタンダードエディション	2003スタンダード	5	37020-32

## LonMakerインテグレーションツール製品ラインナップ

	説明
必要なPC環境	Windows XP（プロフェッショナル、ホームエディション、タブレットPCエディション）、Windows Server 2003、Windows 2000 最小ハードウェア要件：Pentium III、512 MBのRAM、CD-ROMドライブ、256色以上表示可能な解像度Super VGA（800x600）以上のディスプレイ、マウス等のWindows互換ポインティングデバイス、350 MB以上のハードディスク容量、インストールファイルキャッシュ（オプション機能ですがご利用を推奨します）を選択した場合はさらに185 MBの空きディスク容量、LNSネットワークインタフェースまたはIPネットワークインタフェース 推奨構成：Pentium 4 2GHz、1 GB以上のRAM、256色以上表示可能な解像度1024x768以上のディスプレイ、オプションでご利用いただく一部の手書き機能では、マイクロソフトWindows XPタブレットPCエディションでVisioを実行する必要があります
利用可能なLNSネットワークインタフェース	iLON 10、100、600のIPインタフェース用Windows XP、Windows Server 2003、Windows 2000ドライバ付属、U10およびU20 USBインタフェース、PCC-10 PCカード、PCLTA-20および21 PCIカード、SLTA-10シリアルLonTalkアダプタ
利用可能なIPネットワークインタフェース	WindowsのTCP/IPネットワーク互換ネットワークドライバを使用できる任意のPCネットワークインタフェースカードまたはダイアルアップ接続、IP-852インタフェース用Windows XP、Windows Server 2003、Windows 2000ドライバ付属
ネットワーク変数	LONWORKSデバイス1つにつき最大4,096

LonMakerツールで定義されるネットワークには、ネットワークごとに以下のような最大数の制限が適用されます。

対象	説明
実行可能なLonMakerツール	5つまで
アプリケーションで利用可能なデバイスタイプ	最大32,385
チャンネル	最大1,000
デバイス	最大32,385（ルータやネットワークサービスデバイスの場合は2アドレス必要）
ドメイン	ネットワークごとに1つ
ルータ	最大1,000

LonMakerツールは使用量に応じた価格設定となっております。当初は1台のPCでLonMakerツールを利用できるライセンスを低価格でご提供し、必要な数のネットワークを設計していただきます（Visio 2003のライセンスも含まれています）。デバイスのコミッション作業を開始するときには、LonMakerクレジットと呼ばれるデバイスごとのプリペイド料金が必要になります。LonMakerツールのプロフェッショナルエディションには64クレジットが無償で付いています。スタンダードエディションの場合は、無償のLonMakerクレジットは5クレジットになります。追加クレジットが必要な場合は、「LonMakerクレジット」（モデル37100）をご注文ください。

注：

1. Visio 2003スタンダードの全機能に加えて、各種設計図面（ビル設計図、空間図、平面図、論理ネットワーク図、他技術図面）などのサポートが強化されています。

---

## ご注文情報

製品	エシェロンモデル番号
LonMaker インテグレーションツール プロフェッショナルターボエディション	37000-32
LonMaker インテグレーションツール スタンダードターボエディション	37020-32
LonMaker クレジット (最小注文数: 20クレジット)	37100
LonMaker インテグレーションツール プロフェッショナルターボエディション アップグレード	37012-32
LonMaker インテグレーションツール スタンダードターボエディション アップグレード	37032-32

## ドキュメンテーション

以下の技術資料をWebサイト ([www.echelon.com](http://www.echelon.com)) からダウンロードできます。

文書	エシェロン部品番号
LonMaker ユーザーズガイド ターボエディション	078-0333-01

---

### ■ お問合せ先:

エシェロン・ジャパン株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー18F 電話(03)5733-3320 FAX(03)5733-3321 [www.echelon.co.jp](http://www.echelon.co.jp)

©2000-2006 Echelon Corporation. Echelon, LON, LonWORKS, LonMARK, LonBuilder, NodeBuilder, LonManager, LonTalk, LonUsers, LonPoint, Digital Home, Neuron, 3120, 3150, LNS, ShortStack, iLON, LonWORLD, Panoramix, LonMaker, Echelonロゴ, およびLonUsersロゴは、米国やその他の国々におけるEchelon Corporationの登録商標です。LonLink, LonResponse, LonSupport, LONews, Open Systems Alliance, Pyxos, Powered by Echelon, LNS Powered by Echelon, Panoramix Powered by Echelon, LonWORKS Powered by Echelon, Networked Energy Services Powered by Echelon, NES Powered by Echelon及びThinkingInside the boxはEchelon Corporationの商標です。その他の商標は、それぞれの所有者に帰属します。

ニューロンチップ、フリーストボジーまたはツイストペア線トランシーバ、モジュール及びその他のOEM製品は、健康被害、危険、あるいは損害を惹き起こす恐れのある装置やシステムにおいて使用できるようには設計されていません。該当製品をそのように使用した場合、エシェロンは一切責任を負いません。エシェロンは明示、暗示、法律あるいはコミュニケーションの内容に関わらず、一切の保証や約束をするものではありません。特に、エシェロンは、明示したものの以外に、何か特定の商品価値や適性を保証するものではありません。

本書に記載された内容は予告無く変更される場合があります。本書の内容の一部または全部をEchelon社の書面による事前の承諾なしに複製、記録、送信することは電子的、機械的、複写、記録、その他のいかなる形式に拘らず禁じられています。 003-0316-02A



[www.echelon.com](http://www.echelon.com)